



左から伊吹ゼミ、大庭ゼミ、船木ゼミ、貫ゼミ、島津ゼミ

哲学科カリキュラム

1 年次	個人的指導: 基礎ゼミナール	基礎 哲学の手ほどき/哲学概論/倫理学概論/論理学概論/芸術学概論/現代思想概論/西洋哲学史/日本思想史/インド思想史/中国思想史/イスラム思想史	入門:哲学の手ほどき	芸術理解 音楽論/美術論/映画・演劇論/サブカルチャー論/パフォーマンス論/映像文化論/西洋美術思想の歴史	人間理解 神話学/記号・象徴論
2 年次	ゼミナール1	深化 日本の思想/日本の伝統芸能/精神分析学/宗教学/心の哲学/社会学/科学哲学/倫理の哲学/ことばの哲学/歴史の哲学/フェミニズム思想/論理の哲学/文化の哲学/現代形而上学入門/差異の哲学/応用倫理	最先端 哲学特殊講義		
3 年次	ゼミナール2				
4 年次	ゼミナール3				卒業論文

こんな講義です

「哲学の手ほどき」: 哲学にもさまざまな考え方やテーマがあります。この授業では哲学科の先生方が交代でそれぞれの研究分野についてわかりやすく解説します。どのような考え方があり、どんな先生がいるのかを知ることができます。「パフォーマンス論」: バレエ、ダンス、日本舞踊、盆踊りなど、多様な舞踊について、ビデオ映像を見ながらその歴史をたどり、それぞれの楽しみ方を学びます。それによって舞台芸術とはなにかを知ることができます。「哲学特殊講義」: 各先生が、それぞれ、現在取り組んでいる最新の研究について、わかりやすく解説します。哲学の最前線がどのようなものであるかを知ることができます。

卒業論文の例

卒業論文のテーマは、学生の関心・興味にしたがって、ほとんど自由に選ぶことができます。過去のテーマを見ると、「固有名をめぐる考察: 『名指しと必然性』を軸に」「カントの空間・時間と物自体」のように哲学者の考えについての論文のほか、「なぜ、人は人を殺すのか」「人間とロボットの共存の可能性」のような哲学的テーマに関するもの、「『卒都婆小町』に見る老女」「『アヴィニヨンの娘たち』の「不足」意識把握としての写真」「ジャズの発展と西欧機能と声理論」のように、芸能や芸術をテーマにしたもの、「オリンピックの意義」「ミュージアムと国民国家」「グローバリゼーションとアイデンティティ」のように現代的テーマについてのもの、「日本の火葬史」など日本文化についての論文などがありました。

在校生の時間割



海元優太さん
哲学科4年生
(取材時)

哲学と聞くと、堅苦しく、将来あまり役に立たないというイメージがあるのではないのでしょうか。でも、そんなことはないです。僕が重要だと思っているのは哲学が人の思想を取り扱っているということです。思想を呑みにするのはなく、問いを立て自分なりに追求することは、きっと将来役に立つスキルになると思いますし、友達や先生の意見を通して新しい視点を持つこともできると思っています。また、哲学ではさまざまなことをテーマとして掲げることが出来ます。日常のささいなことに疑問を抱いている方、どのような疑問でも構いません。哲学科でじっくりと自分と向き合いながらその疑問を追求してみてくださいはいかがでしょうか。

	月	火	水	木	金
1年次	1 英語初級基礎Ⅰ(前)/Ⅱ(後)	2 西洋哲学史(古代・中世)	3 英語初級Ⅰa(前)/1b(後)	4 体育実習	5 英語表現a(前)/b(後)
2年次	1 社会思想B	2 現代思想概論	3 日本史	4 自然地理学概論Ⅰ(前)/Ⅱ(後)	5 自然地理学概論Ⅱ(前)/Ⅲ(後)
3年次	1 英語中級実習Ⅰ(前)/Ⅱ(後)	2 記号象徴論(前)	3 哲学A	4 教育実習(前)	5 教育実習(後)
4年次	1 生命の科学C	2 心の哲学	3 サブカルチャー論Ⅰ	4 神話学(前)	5 ゼミナールⅡ
5年次	1 哲学A	2 西洋哲学史(現代)	3 芸術学概論(前)	4 芸術学概論(後)	5 卒業論文

教員紹介

氏名(専門分野)、ゼミナールの内容、主要著作

募集学生定員は70名、教員数は9名です。学生定員の8割は一般入試、センター入試によって入学します。

神崎 繁
古代中世哲学
倫理学

アリストテレスの『ニコマコス倫理学』、『弁論術』、『スピノザ「エチカ」』などをもとに人間の感情について考える。『魂への態度』(岩波書店)、『フーコー』『ニーチェ』(NHK出版)、『プラトンと反-遠近法』(新書館)など。

大庭 健
倫理学
分析哲学

自分がある、とはどーゆーことか?自分がいる、とは?「姿形や好み、考え方が変わっても自分は自分か?」。現代の哲学論文を読み、考える。『いま、働くということ』(ちくま新書)、『責任ってなに?』(講談社現代新書)、『所有という神話』(岩波書店)。

菊地健三
近代ドイツ哲学
美学

カント『純粋理性批判』を読む。『カントと2つの視点——三批判書を中心に』、『性差についてのカントの見解』(翻訳:U. P. ヤウヒ著)(専修大学出版局)、『美は無根拠か』(共著、大明堂)、『ジル・ドゥルーズの試み』(共著、北樹出版)。

船木 亨
現代フランス哲学

ドゥルーズ/ガタリ『千のプラトー』を読む。『進化論の5つの謎——いかにして人間になるか』(ちくまプリマー新書)、『デジタルメディア時代の『方法序説』』(ナカニシヤ出版)、『メルロ=ポンティ入門』(ちくま新書)、『「見ること」の哲学』(世界思想社)など。

伊吹克己
フランス実存哲学

精神分析の理論によれば、人類はすべて神経症を患っています。では、哲学者も精神に異常をきたしているのでしょうか。こういう問題意識にもとづく、精神分析からの哲学(人間)へのアプローチを考えていきます。『J.-L.ナンシーの共同体論をめぐって』、『アジアという経験』など。

金子洋之
論理学
言語哲学
数学の哲学

言語、コミュニケーション、論理。ことばの働き、とくに自分の考えをことばで他者に伝えられるのはどうしてか、そのメカニズムを探ります。『ダメットにたどりつくまで——反実在論とは何か』(勁草書房)など。

出岡 宏
日本倫理思想史

「能」を通して人間を読む。能ということばになりにくいものをことばにする努力を通して、人間と自分自身について考えます。『小林秀雄と(うた)の倫理』(ベリカン社)、『世阿弥の芸術における価値語』、『小林秀雄の「当麻」をめぐって』、『「つれづれ」という在りかたをめぐって』など。

貫 成人
現象学
美学
舞踊学
歴史理論

音楽や舞踊、衣食住、儀式や祭り、異文化など、ひろく「文化」と言われるものがどのような意味をもつのか、その歴史や作品を手がかりに考えていく。『歴史の哲学』『経験の構造』(勁草書房)、『哲学マップ』(ちくま新書)、『図説標準哲学史』(新書館)など。

島津 京
美術論
芸術学
美術史

様々な芸術について、作品研究を通じて考える。それはいったいどういった背景を持ち、なぜ芸術とされているのか。「国政と産業のあいだでもがいたハウハウスの芸術運動」など。